

純正オーディオ リモコン インストールマニュアル

エリシオン 用

「純正オーディオリモコン」をご用命頂きまして、ありがとうございます。
シロートの拙い工作物ですが、その辺りは笑って許してくださいませ。
楽しいカーDIYの一つとして、お楽しみ頂けると幸いです。

2005/6 M相良

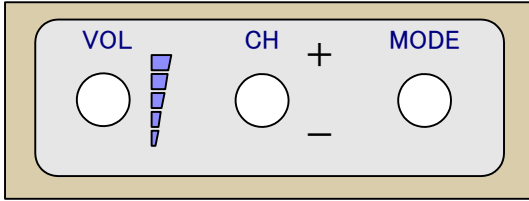
取り付け時の注意

1. 電装系のDIYは誤配線があると、最悪出火等の可能性が有ります。
説明を良く読んで、トラブルの無いようにお気をつけ下さい。
2. エアバックが標準装備されている為
センサーが活着している間に、不要なショックを与えると、エアバックが作動したり
非常に危険を伴います。
3. ご自分での取り付けに自信がない場合、有る程度のスキルをお持ちの方と
一緒の作業をお勧めします。
4. 個人的にお分けする物です。製品保証等、一般の製品に有する保証関係は、
いっさいありません。その分、お安いと言うことでご理解下さい。

※誤接続以外の問題で、本体の初期動作不良が認められた場合のみ
交換をいたしますので、ご連絡下さい。

5. ディーラー、カー用品店等への取り付け依頼は、おそらく断られると思います。(爆)

◎上記を怠ったため、発生した 問題・事故 等につきましては、作業される方の
責任の範囲内とさせていただきます。
その点の保証等はいっさいいたしかねます。ご了承下さい。



「 SWパネル部 」

ステアリングリモコンと同一の動作となります。
切り替え時の制限事項は、ハンドルリモコンと同じです。

※TVモードを抜けると インパネSWでないと TVモードに出来ません。

シールド線は長めにしています。
ご自分の好みに設置位置を設定してください。
マジックテープを利用すると、使用時の移動も出来ると思います。

内容の確認

1. ユニット本体。
黒のプラケースにSWが取り付けられています。
シールド線が出ており、シールド線の先端は 赤・橙 の線が取り付けられています。
※ワンタッチカプラでの接続がし易いようにしています。
3. ワンタッチカプラ 2個

別途必要な物

1. 取り付け位置に応じた固定具
両面テープ、マジックテープなどを利用してください。

必要な工具

1. プラスドライバー
・フロントロアパネルを外すために使用
2. プライヤー
ワンタッチコネクタの取り付けに使用

取り付け手順

1. 設置位置の決定

センターテーブル等、取り付ける位置を検討します。

2. 接続線の取り回し

SWユニットから、ハンドルコラムの上部まで ハーネスを引き込みます。

3. 接続

指定したカプラへ2本接続

以上です。

1. 設置およびコードの引き回し



SWユニットの設置位置を決めます。

※ 画像のユニットはプロトタイプのため異なります。



運転席下のガーニッシュカバーを外します。

クリップではまっているだけのため、引き上げれば外すことができます。



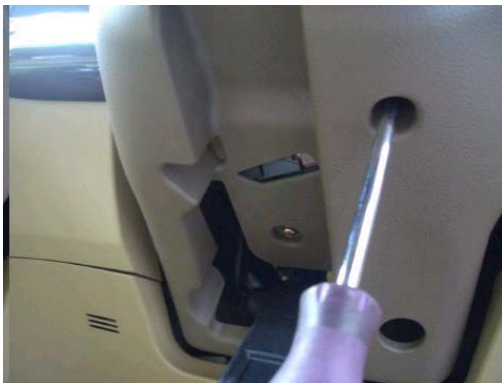
シールド線を中心に通していきます。



足下から、ハンドル横まで引き込みます。
必要に応じて、カバーを浮かせてください。
※戻す際に噛み混まないよう注意



ハンドルコラムカバーを外します
まず上の右のツメを外します。
うまく外れない場合、横にある 小さな穴から細いピンを差し込むと外しやすいかもしれません
同様に左側のツメも外しておきます。
ココでは手前側の2カ所



ハンドル下部に 2本ビス止めされています。



下部のカバーを押さえつつ、奥側のツメを2つ外します。





上部のカバーが外れたら、指定のカプラを引き抜きます。

真上に 13P または 5P のカプラがあります



ハーネスの保護テープを少し剥き、接続しやすくします。

橙を 緑／橙へ ①

赤を 緑／赤へ ②

装備によって、カプラが若干異なります。
線色で探してください。

13Pの場合

□□□■ ■ ■ □□

□□□□□①②□

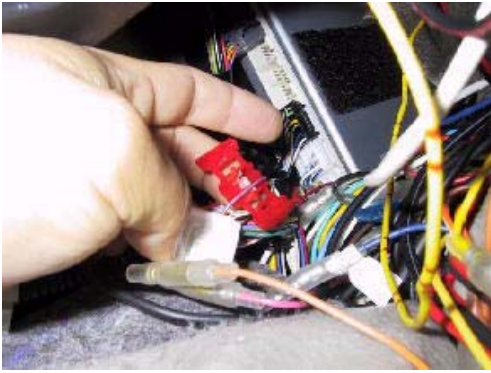
5Pの場合

□□□①②

※抜いたカプラのコード側から見てます

あとは、カバー類を元に戻すだけです。

先に、動作チェックをお勧めします。



ワンタッチカプラの使用例



ワンタッチカプラの使用法

・ワンタッチカプラは、配線の割り込みに使用します。

1. 溝が左右に切っている方に、元の配線をかませます
2. プライヤーで、片側をかしめます。
3. 割り込ませる配線をもう一方にかませます。
4. しっかり、かしめて 完了。

※ 黄色の配線が、ECUのハーネス
青の配線が ユニットの配線
に相当します。

※ 非常に手を入れずらい、狭いところでの作業になりますが
コードを斜めに挟んでしまったり、プライヤーで挟んで
しまったりなど、十分 注意しましょう。

※ ここで、元のハーネスを切断等してしまうと
走行不能になるおそれもあります。
十分、注意してください。